

「ひとりの未来をつくる」  
美術館が生まれます！

作品プランやスケッチを大公開！

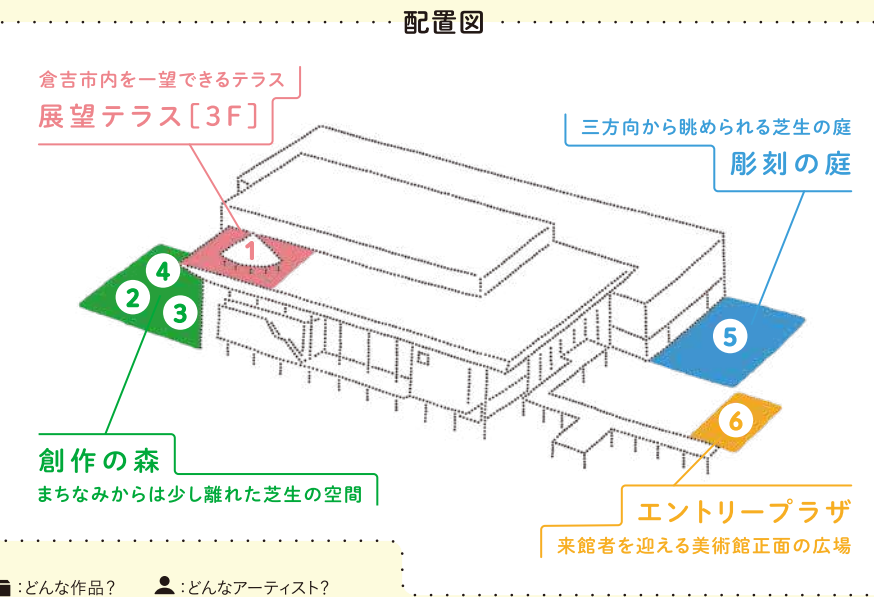
## 県美は、屋外アートも充実！

国内外のアート作品のコレクションやラーニングプログラムも特徴的な鳥取県立美術館。じつは屋外にも、国内外から注目を集めるアーティストの作品が集まります！

### 1 中ハシクシゲ (なかはしかつげ)



作家自身の視覚を遮断し、触った記憶をもとに造形する「触覚彫刻」で制作された、中ハシ氏が飼っていた2匹の犬の像。触覚で鑑賞する作品。作風を変化させながらも、「日本の彫刻とは」を問いつける彫刻家。米子東高校出身！



### 2 Rirkrit Tiravanija (リクリット・ティラヴァニ)



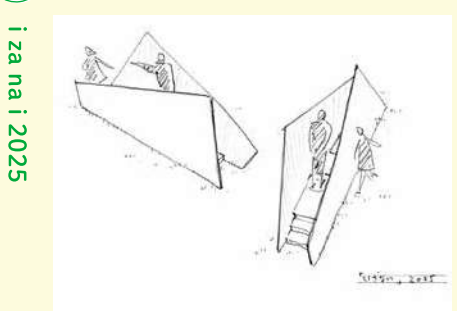
窯やベンチ、焚き火台が設置されたすり鉢状の空間。集まった人々で食事などの場を共有しながら、コミュニケーションが生まれる。体験と交流に焦点を当てた参加型の作品で知られる、「関係性の美学」の代表的作家。

### 3 SUPERFLEX (スーパーフレックス)



3人掛けのブランコ型の彫刻。3人で息を合わせてはじめて、ブランコは動き出す。集合し、協力することで生まれるエネルギーを体感。社会制度に目を向け、人々を巻き込むプラットフォームをつくるアーティストユニット。

### 4 鈴木昭男 (すずきあきお)



階段状の通路を通り抜けることで「感覚をひらく」作品。2点を対に配置し、それぞれ異なる景色を望むサイトスペシフィックな作品。サウンド・アートの先駆者として国際的に活動する、日本を代表するサウンドアーティスト。

### 5 李禹煥 (リウファン)



内側を鏡面仕上げにした鉄板に水を溜め、2つの石を配置。合せ鏡のような映り込みがつくる「無限の湖」は、瞑想的な空間を来館者にもたらす。国際的な注目を集めてきた、戦後日本の美術運動「もの派」を代表する美術家。

### 6 青木野枝 (あおきのえ)



かつて鉄の産地であり、製鉄・銀冶の遺跡も残る鳥取県中部。この土地の産業を支えてきた「鉄」の彫刻が来館者を迎え、美術館を見守る。工業用の鉄板を素材に用いた、空間に立体的に展開する作品が特徴の彫刻家。

## 今号の運び人 passer

舞台は 倉吉白壁土蔵群 〒682-0821 鳥取県倉吉市魚町



開館に向けて鳥取各地を白い箱が旅します

倉吉市で郷土玩具の復刻に取組む YANAGIYA REPRODUKT

メンバー 田中信宏さん 田中文さん 川崎富美さん

1928年から86年間にわたり郷土玩具を作り続けた工房「柳屋」。その玩具を復刻制作するプロジェクトとして2020年に始動。COCOROSTOREにて販売中 https://cocorostore.com/

Q どんな活動をしているの？  
A 「柳屋」は張り子面、木製人形、土人形など、50種以上にもおよぶ多様な郷土玩具をつくり続けた鳥取市の工房です。現在、地元有志が二代目の田中謹二・宮子夫妻に教わったことをもとに、少しずつ玩具の復刻をしています。「柳屋」の愛らしい玩具を多くの人へ、また新しい世代へとつないでいくことを目指しています。

Q 鳥取県立美術館に期待することは？  
A 美術館のカフェでお茶をしたり芝生でピクニックのついでに作品を鑑賞したりと、日々当たり前になり立ち寄り、日常の延長線上にアートがある場になると嬉しいです。(画)  
•子どもが参加できるワークショップやギャラリートークがあると素敵ですね。(文)  
•訪れると新しい発見があり、帰宅後も自分で調べて深掘りしたりしたくなるような場を期待しています。(信)  
YANAGIYA REPRODUKTのみさんへのロングインタビューをWebメディア「totto」にて11月頃公開予定！

Passer's Recommend

- 1 木の椅子 JUNの小屋スツール 素朴ながら絶妙な丸みや座面の角度で座り心地がよく、実用的であたたかいスツールです。(画)
- 2 伯耆国府跡でのお花見 古代の役所跡「伯耆国府跡」には大木の桜のまわりで芝生が広がるのんびりと春を満喫できます。(文)
- 3 伯耆一ノ宮 倭文神社 機織の神や安産・農業・医薬の神「下照姫」などが祀られます。気を整えたいとき、参拝します。(信)

美術館の開館が待ち遠しくなる！  
県美 NEWS & TOPICS  
01 アート・オブ・ザ・リアル 時代を超える美術—若沖からウォーホル、リビターへ—  
開館記念展  
江戸／現代、日本／世界の広がりをもつ当館コレクションの特徴を交えながら、若沖以降の各時代を代表する名品約200点を一堂に展示。古来より美術の重要なテーマであった「リアル」をめぐる挑戦の軌跡を、さまざまな切り口でご覧いただけます。  
会期 2025年3月30日(日)～6月15日(日) ※休館日あり  
会場 鳥取県立美術館 企画展示室、コレクションギャラリー1・2  
▲伊藤若沖《象と鯨図屏風》(六曲一双・右隻)／江戸時代／紙本墨画／MIHO MUSEUM蔵

02 水木しげるの妖怪 百鬼夜行展 ～お化けたちはこうして生まれた～  
現代の日本人に「妖怪」という文化を根づかせた水木しげる(境港育ち!)が、どう妖怪と向き合い、描いてきたか紐解きます。初公開となる水木所蔵の妖怪関係資料、100点超えの妖怪画を一挙公開！  
会期 2025年7月19日(土)～8月31日(日) ※休館日あり  
会場 鳥取県立美術館 企画展示室  
▲水木しげる《がしやどくろ》  
今秋から一般向けワークショップも開催予定！  
▲鳥取短期大学の学生が参加したワークショップの様子

締切間近 鳥取県立美術館ボランティア TMOA+ として活動してみませんか？  
鳥取県立美術館 (Tottori Prefectural Museum of Art=TMOA)では、美術館とつながるしくみの一つとして、ボランティア制度を構築しました。イベントの運営サポートや資料整理の補助、美術館周辺の美化清掃など活動内容はさまざま。美術館を支えてくださるみなさんの力が、美術館のプラスとなります。「TMOA+」へのご登録をよろしくお願ひします！  
TMOA+への登録は9月末日まで！1年ごとの更新制で、来年度以降も募券を行います！  
申込先

県民とつくる  
鳥取県立美術館ができるまでを伝える現状報告マガジン



いよいよ  
オープンまで  
約半年！

美術館の建築工事が完了し、屋外アートの設置が進んでいます！

# HISTORY OF MUSEUM

2023 (R5)  
12/7

令和5年度は、美術の展覧会開催期間中にのべ14校869名の小学生を展覧会に招待!

県内すべての小学4年生を美術館へ招待する「MUSEUM START BUS」\*の試行として開催。対話鑑賞のファシリテーションを学ぶ鳥取短期大学の学生や研修を受講したボランティアの方々が、小学生とともに展覧会場を巡りました。

※「Art Learning Lab [A.L.L. (オール)]」の主要事業のひとつ



鳥取県立博物館にて地元の小学生とともに対話鑑賞をする様子

12/16

鳥取県立美術館プレイベント「はじまる。これからの美術館でできること」

学芸員とともに展覧会「赤ちゃんたちのためのアート鑑賞パラダイス」をつくり上げた美術館プレイヤー&サポーター\*、東京・森美術館で普及事業に携わる白木栄世さんをゲストに迎え、2つの座談会を開催。開館を目前に控えるなか、さまざまな視点から「これからの美術館でできること」についてディスカッションを行いました。

※プレイヤー&サポーター：一般公募で集まったメンバーで、アイデアをカタチにし、展示物の制作や設置などをサポートしていただく「みんなで作る」鳥取県立美術館の活動です

レポートはこちら

2024 (R6)  
2/11

朝鑑賞シンポジウムを開催

「朝ドリル」や「朝読書」など多くの学校で行われる始業前の短時間活動のなかで、美術作品の鑑賞を行う「朝鑑賞」。シンポジウムでは、先進事例を紹介する基調講演をはじめ、「朝鑑賞」が何をもちらし、児童・生徒や教師にどのような変化を生むのかが話されました。オンライン聴講者は、国内外から100名を超え、教育界での関心の高さを再認識。参加者が各々の場所で「朝鑑賞」を実践する機運を高めていく、貴重な機会となりました。



(右から)三澤一実さん、沼田芳行さん、齋尾二美世さん、角田亘さんによるシンポジウムの様子

## Collection Recommend

人に  
おすすめの名作  
塩谷定好(少女像)  
1931年/ゼラチン・シルバー・プリント

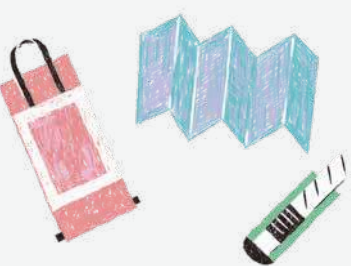


学芸員 藤巻和恵選  
ベルベット風の襟・袖に、裾がジグザグしたモヘア調スカート。襟はフリル状になっていて、かわいらしさを一層引き立てます。当時、洋服は「買う」よりも家で「つくる」のが一般的でした。上下毛糸のこの服も工夫を凝らして誰かが編んでくれたのでしょうか。

おかげで毛糸つばがりで!  
小出福童のぐらうもつと305年  
ヒナ着に並べてアアハ!



解説  
大正末期から昭和初期にかけて隆盛した「芸術写真」の第一人者・塩谷定好(1899-1988)は、生まれ故郷である鳥取県赤崎(現・琴浦町)を拠点に生涯にわたり山陰の風景や人物を独特のソフトフォーカスで表現しました。本作にはその特徴がよく表れています。



2/23・3/16

企画展「生誕200年 根本幽峨」関連ワークショップ ミニ掛軸・ミニ屏風づくり

企画展の作品への理解を深めてもらうことを目的に、気軽に参加できるものづくりワークショップを開催。小学校の団体来館時にも、学芸員による解説+ミニ屏風づくりを体験していただき、短い時間ながら充実したひとときとなりました。(ミニ掛け軸・ミニ屏風づくりは、美術館のPR活動の一環として、8月に東京でも行いました!)

3/17

美術館のオープニングを飾るイベントに向け「パレード」の準備を進行中!

宮原翔太郎「長い祭りの準備プロジェクト」は、「Parade on Parade」(パレード・オン・パレード)に名称を変更。美術館開館前日に開催予定の、美術館までを練り歩くパレードに向け、衣装や鳴り物などの制作を進めています。月1回のミーティングやワークショップ(WS)を重ねて迎えたこの日は、メインビジュアルをシルクスクリーン印刷するWSを開催。今後も県内各地にて、さまざまな企画を展開予定です!



それぞれが持参したTシャツなどのアイテムに、色の組み合わせを楽しみながらプリントしました

3/30

『Pass me!』10号目発行!



3/31

開館1年前カウントダウンイベント 参加型アートプログラム「どんどこ!巨大紙相撲〜とっとりけんび場所〜」本場所開催!

県内東・中・西部地区での“巡業”を経て、32の個性豊かなカ士による相撲トーナメントが行われました。「谷町」のスポンサーをはじめ、行司に呼出、解説やコメンテーター、太鼓の演奏や余興への出演など、本番所に多くの方々のご協力のもと、取組ごとに歓声が巻き起こる、本物の相撲さながらの盛り上がりとなりました!



倉吉未来中心で行われた取組の様子



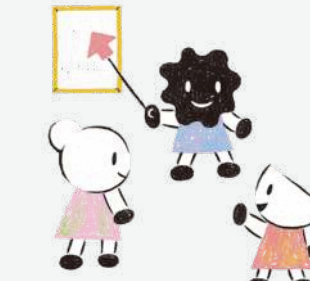
巡業ワークショップで誕生したカ士たち

土谷享さん(美術家ユニットKOSUGE1-16代表)カ士をつくり参加する「する人」、ご鼎賛カ士を応援し参加する「みる人」、谷町になって参加する「ささえる人」が三位一体となった「とっとりけんび場所」。プレイヤーが固定化されやすいアート文化を、相撲の「本場所」に重ねて、アート文化が社会化する姿をデモンストレーションする取り組みでした。巡業で出会った天真爛漫な子どもたち大人たち、全部最高でした!

※「どんどこ!巨大紙相撲」は、美術家ユニットKOSUGE1-16によるワークショッププログラムです



講師



5/11・18

令和6年度の対話鑑賞ファシリテーター養成研修を開催

対話鑑賞を行うファシリテーター養成研修を、今年度も開催。再受講者による参加も多数あり、さらなるスキルアップを図る機会にもなりました。多彩な講師陣による全5回の研修は、美術館開館後も継続予定です。

4/8

鳥取県立美術館 ついに竣工



- ①オリエンテーション「美術館について」(4/21 尾崎信一郎館長)
- ②作品を鑑賞するとは(5/11 神野真吾氏)
- ③対話型鑑賞とは(5/18 三ツ木紀英氏)
- ④「きく力」とは(6/29 佐藤敬子氏)
- ⑤ファシリテーションの実践(6/30~7/12) 全5回の研修をコンプリートされた方には、修了証を進呈しています!

待ちに待った美術館の完成をお祝いする式典を執り行いました!



2022年3月から本着工した鳥取県立美術館。建物が少しずつ出来上がっていく様子を、さまざまな角度から観測してみました。

2023.11

東エントランス吹抜けの天井、壁の仕上げが完了。足場も続々と解体されていきます。



2023.12

ひろま吹抜けの階段まわりの内装が仕上がりました。屋外階段も施工が進みます。



2024.01

収蔵庫のピックアップハンガーの取り付けが完了。屋外スロープなど外構の施工にも着手。



2024.02

建物内の施工がほぼ完了。エスカレーターなどの設備点検も行われました。



2024.03

展示室備品の搬入・組み立てが進みます。建物の取扱説明会も実施されました。



2024.04

完成披露へ。工事に携わってくださったみなさま、ありがとうございました!



建設記録ムービー「美術館ができるまで」を公開! 「アートの種まきプロジェクト」として実施してきた定点観測写真や、みなさまから応募いただいた記録写真のほか、設計担当者・松田浩幸さんのインタビューを加えて構成しています。ぜひご覧ください!



動画はこちらから!

